

◆ 基礎情報

計画名	石田ゼミの地域ものづくり連携
実施責任者	建築・デザイン学部 建築・デザイン学科 石田和人
対象者	建築・デザイン学部 デザインコース3年 石田ゼミ 10人
実施期間	2025年4月～2026年3月

◆ 取組み概要

本取り組みは、日本各地の工芸や地場産業と連携し、地域に根付いたモノづくりを実践的に学びながらその技術を活用した個人作品とグループ作品の制作および、お世話になった方々をお招きするイベント（おもてなしの会とグループ展）の開催を目的として実施した。

制作現場の視察や体験、職人・作家との交流を通じて専門的な知識や技術を学ぶとともに、イベント実施における学生同士のグループ活動を通じて共立リーダーシップの育成を図ることを目指している。

具体的には前期と後期にイベントを分け、前期は「接遇の会」というおもてなしの会に向けた、山梨の陶芸制作と川口の金属加工による食の道具を制作。後期には「接遇展」に向けた、川口の時計制作とそれを展示する台を岩手の伝統工芸技術を活用して制作を行なった。それらは個人制作とグループ制作を組み合わせ、イベントに向けた大きな目標設定や役割分担を行いながら、各自が目標の共通認識を失うことなく作品制作や発表に取り組むことで一体となり、主体性・協働性・責任感を養えるように活動した。

◆ 取組み全体の流れ

前期
4月 川口工場見学
前期「接遇の会」のテーマ決め、グループでの目標設定、作品制作デザイン開始
5月 山梨の作家さんとオンラインミーティング
6月 山中湖陶芸倶楽部さんへ陶芸制作
川口作品についてオンラインミーティング
7月 展示に向けた企画・準備（展示構成、広報等）
「接遇の会」を開催し、お世話になった作家や会社をお招きして成果発表と振り返り
9月 旭川へゼミ合宿、木工房の視察と体験
後期
9月 後期「接遇展」のテーマ決め、グループでの目標設定、作品制作デザイン開始
10月 岩手の作家さんとオンラインミーティング
11月 岩手平泉地区にて南部鉄器、岩谷堂筆筒、秀衡塗、和菓子等の工房見学と作品実制作
12月 川口の工場にて時計実制作、ギャラリー視察
～1月 個人・グループによる制作活動の継続、展示に向けた企画・準備（展示構成、広報等）
2月 「接遇展（グループ展）」を開催 お世話になった作家や会社をお招きして展示
3月 新ゼミ生歓迎会と今年度の振り返り

◆ 取組みの成果

本取り組みを通じて、学生は工芸や地場産業の現場で得た知識や技術をもとに、グループ作品および個人作品を制作した。制作活動に加え、前期の「接遇の会」、後期の「接遇展」においては、学生が主体となって企画・運営に携わり、協力しながら成果を発表した。

展示や発表の準備過程では、意見交換や役割分担を行い、他者と協働しながら一つの成果を作り上げる経験を積んだ。

山中湖 <https://kendesign.kyoritsu-wu.jp/?p=16146>
接遇の会 <https://kendesign.kyoritsu-wu.jp/?p=16657>
旭川 <https://kendesign.kyoritsu-wu.jp/?p=17311>
岩手 <https://kendesign.kyoritsu-wu.jp/?p=17537>
接遇展 <https://kendesign.kyoritsu-wu.jp/?p=17754>（開催中！）

◆ リーダーシップ教育に関する実践

共立リーダーシップの意識づけ、目標設定の活動	最初に「実践ガイド」と「ループリック」を提示し、共立リーダーシップの考え方について説明を行い、各自が自分なりのリーダーシップを発揮することの重要性を意識づけた。協働活動が固定化しないよう、前期と後期でチーム編成を変更し、異なるメンバーとの協働ができるように工夫した。「デザインとは相手のニーズや思いを汲み取り、より良いアウトプットを生み出す行為」という考え方を強調し、地域の職人や作家が喜ぶような企画やおもてなしをチームで考えるよう指導した。社会におけるデザイン業務の多くがグループワークであり、役割分担して遂行し成果を高めていくことを伝えた上で、「リーダーシップ行動確認シート」と、「チームの方針・ルール作成シート」を用いて目標や行動指針を共有させた。
協働活動	グループ単位の作品制作を中心に、展示やイベント全体のデザインやイメージの共有、個人作品制作、ビジュアルや空間デザイン、イベント当日の役割分担などに取り組みさせた。イベントや空間デザインの方向性が定まった後は、学生同士の連携が円滑に進み、協働による効果が顕著に表れた。一方、活動初期のイメージ共有や意見調整には時間を要し、停滞する場面も見られた。その際は、教員が第三者の視点から意見を提示したり、ブレイクタイムを設けたりすることで議論を整理し、会議が停滞した場合や実現性に欠ける進行になりそうな場合には、適切な声かけを行い、活動が前向きに進むよう助言した。
共立リーダーシップの観点での振り返り	個人単位では「リーダーシップ自己評価シート」を用いて行い、各自が自身の行動や関わり方を客観的に見直す機会とし、その後チームでの振り返りの場を設け、個人の振り返り内容を共有しながら、チームとしての取り組みについても意見交換を行った。使用した教材は、「チームの振り返りシート」である。また、作品制作についてはお招きした地域の方々からの意見も聞く時間もとり、自分たちの行動や判断が相手にどのように受け取られたかを考える機会にもした。

◆ 学生の成長に関する総括

ゼミ活動の開始当初は、いくつかの仲良しグループに分かれ、全体として会話が少ない状態であった。しかし、興味関心の近い分野や共通の目標を設定して取り組むことで、前期の締めくくりである「遭遇の会」に向けて徐々に連携が深まり、学生同士の関係性の変化と成長を強く感じた。そして後期に行った、個人作品である時計を展示する台のデザインでは、チームごとに明確なコンセプトを立てたことで、個人制作でありながらチームの協働が不可欠となり、それぞれのチームの個性が反映された完成度の高い展示台が完成した。

一方で、多くの目標に向かって活動を進めるゼミの特性上、授業時間内で活動が完結しないことも多く、用事があるため早く帰りたい学生と、何としても今日のタスクを終えてから帰りたいと考える積極的な学生との間で温度差が生じるなど、目標の共有とモチベーションの維持、スケジュールの調整の難しさを感じる場面もあった。

高い目標や目的を共有すること、そして何よりデザインは楽しいという気持ちを持ってもらうことで一致団結を図りたいが、全員の意識を揃えることの難しさは、今後の課題である。

◆ 取り組みを通じた全体の所感

石田ゼミでは学内だけでは学び得ない地域や技術などをリアルに体験しながら職人などの第三者と協働し、リーダーシップ含めて人間力を高める学びを実践してきた。その学びを求めてゼミに入ってくる学生は多いが、地方に行くには旅費含めて相当な費用負担が必要になる。今年度もリーダーシップGPに参加することで学生の負担を減らし、学びに集中出来たことは大変感謝している。この学びを経て学生たちの団結力や実践力、協調性など成長を強く実感した。ご協力頂いた職人や企業の方々からも若い学生との接点が地方の活性化や企業の意識改革にもなったといったお話を聞く事ができ、学生の成長のみならず、地域・企業の意識をも高める活動になりえたことと実感している。

学生は1年間リーダーシップを意識しつつ作品制作を行なったことで、コミュニケーションが活発になり、率先垂範や相互理解が進んだ。こうした経験を経て、良い状態で4年次の卒業制作へと進めると感じている。昨年度も同様の流れがあり、卒業制作において学生同士が助け合い、作品の質が向上する様子が見られたことから、本取り組みの教育的効果を実感している。

一方で、イベント数が多く、ゼミ活動の進行管理や学外の地域関係者との連絡・日程調整には大きな労力を要した。リーダーシップ教育の面白さは、学生の予想外の成長に立ち会える点にあるが、同時にスケジュール管理やタスク配分の難しさも強く感じた。次回以降は、活動内容のボリューム調整を図ることも課題だと思っている。

◆ 今後の展開

今後は、これまで連携してきた地域との関係を継続しつつ、新たな地域との連携や、同一地域であっても制作物や取り組み内容を変えるなど、活動に変化を持たせることも検討したいと考えている。また、作業ボリュームの検討と本取り組みで得られた知見を他の授業へ展開する可能性についても、今後検討していく。